

ポスター発表P⑪

# 大学院 GP「医療系クラスターによる組織的大学院教育」 ～医療教育開発センターによる大学院教育支援 2年目の報告～

長宗雅美<sup>1)</sup> 赤池雅史<sup>1)</sup> 岩田貴<sup>1)</sup> 高石喜久<sup>2)</sup> 武田英二<sup>3)</sup> 二宮恒夫<sup>4)</sup> 玉置俊晃<sup>5)</sup> 林良夫<sup>6)</sup>  
 1)徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部医療教育開発センター 2)薬科学教育部  
 3)栄養生命科学教育部 4)保健科学教育部 5)医科学教育部 6)口腔科学教育部

## 1. はじめに

学際的研究推進の観点から領域横断的な大学院教育の重要性が指摘されているが、全国的にもその組織的手法は確立していない。昨年度採択された組織的な大学院教育改革プログラム「医療系クラスターによる組織的大学院教育」が2年目をむかえ、その取り組み状況について報告する。

## 2. 取組の目的

医療系5大学院博士課程から学生を選抜し、所属大学院・専門分野の異なる複数の指導者で形成した教育クラスターが学生の主体性を尊重した双方向性の指導を一貫して行うことにより、領域横断的・学際的研究を自立的に遂行できる世界最高水準の生命科学者の育成に取り組む(図1)。

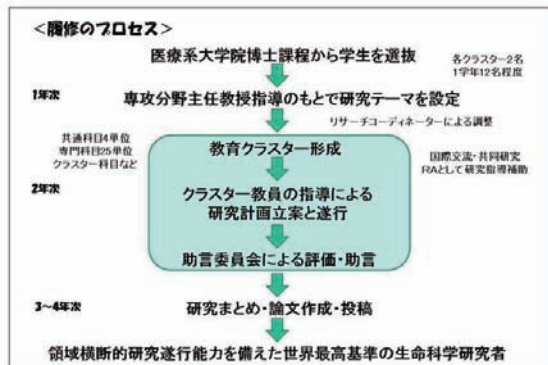
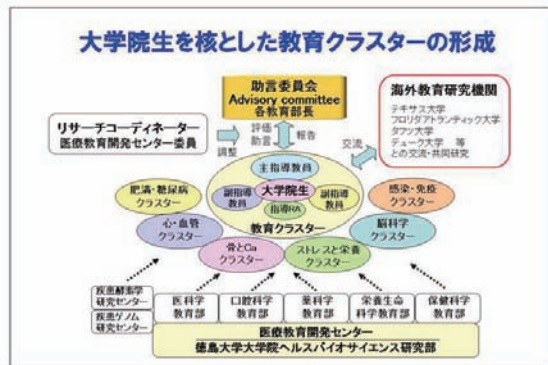


図1 クラスター大学院教育の概要

## 3. 教育クラスターにおける指導体制の状況

医科学、口腔科学、薬科学、栄養生命科学、保健科学の5教育部および疾患酵素学研究センター、疾患ゲノム研究センターの2センターに所属する教員により、「骨とCa」「ストレスと栄養」「感染・免疫」「肥満・糖尿病」「脳科学」「心・血管」の6つの教育クラスターを構築した。すべてのクラスターにおいて教育部横断的な指導体制が構築された(図2)。

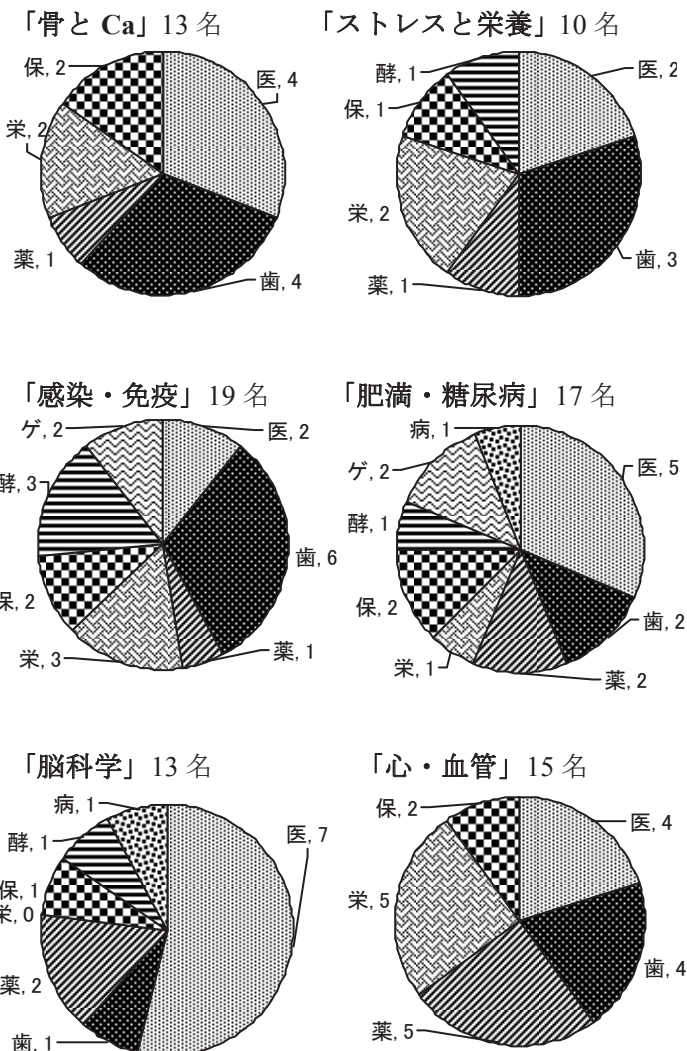
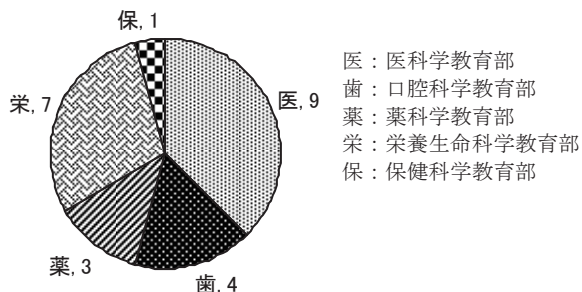


図2 クラスターを構成する指導教員の所属

#### 4. クラスター大学院生の状況

医療系5大学院博士課程大学院生から、クラスター責任者、各教育部長、専攻分野主任教授による評価に基づき、全ての教育部から合計24名（1年生11名、2年生13名）を選抜し、その全員をRAとして採用した。



#### 5. 平成22年度活動状況

##### (1) クラスターコアセミナー

各クラスター毎に、指導教員が最先端の研究内容をテーマとした講義を年15回以上開催する。

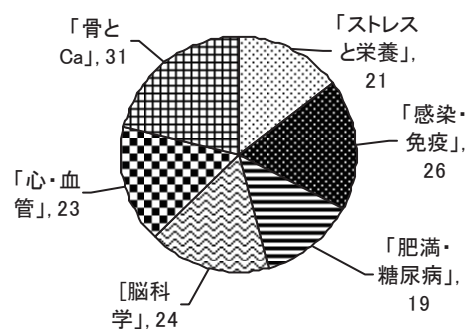


##### (2) ミニリトリート

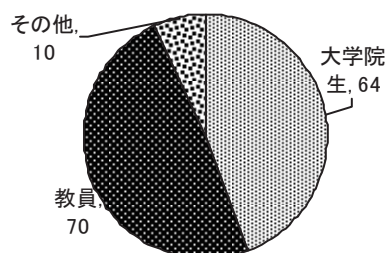
学外施設において1泊2日の日程で、大学院生、若手研究者ならびに指導教員が集まり、特別講演講師も交え、お互いに研究発表やディスカッション・情報交換を行う。日常とは異なる空間に、所属・専門分野が異なる研究者が集うことで、新たな発想を得ると共に、新しい人間関係が構築され、領域横断的・学際的研究の萌芽が期待できる。平成21年度は各教育部から教員、大学院生あわせて144名の参加があり（図4）、参加大学院生から高い評価を得た（表1）。今年度も昨年に引き続き、各クラスター単位での実施を計画している。



#### A. 参加者所属クラスター



#### B. 参加者ポジション



#### C. 参加者所属教育部

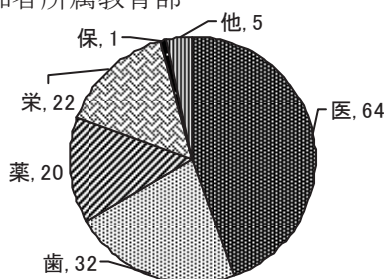


図4. ミニリトリート実施状況（平成21年度）

表1. ミニリトリート参加大学院生による評価「全くそう思う」「そう思う」の比率

他の分野の人と交流できた	91%
発表会は有意義だった	98%
十分なディスカッション・意見交換ができた	86%
今後の研究にとって役立つヒントがもたらされた	90%
次年度以降も継続して開催したほうがよい	92%

#### 6. まとめ

大学院教育のひとつの方法として組織横断的指導の取り組み状況を報告した。今年度末には、クラスター大学院生の中間評価を兼ねた研究成果発表会、およびプログラム評価を目的とした各クラスター報告会を予定している。